

第7回 新一般廃棄物最終処分場候補地選定委員会 結果

1 日 時

令和7年7月8日(木)から令和7年8月22日(金) (書面開催)

2 開催形式

書面による開催

3 回 答 者

委 員 (5名)

- ・委員長 濱田 雅巳 ・副委員長 山田 一裕 ・委員 山口 晶
- ・委員 劉 庭秀 ・委員 後藤 康宏

4 議 事

(1) 詳細調査の評価項目 (案) について

意見なし：2名

意見あり：3名 (修正案について概ね同意だが、下記について意見あり)

(2) 「意見あり」の内容について

- ①委員：修正案については概ね同意する。

あくまでも確認事項だが、「土砂災害警戒区域等指定箇所」や「地すべり」等についてはすでに検討されているのかと思うが、これに準ずるリスクについては「自然条件」内の「災害危険性」で評価され则认为てよいのか。

事務局：ご意見のとおり。

- ②委員：委員との間でも議論になっている「比較的」「平均的」は事務局の意図が伝わらないので、「5箇所の中で比較して」「5箇所の中で平均的」と明示したほうが良い。

事務局：ご意見のとおり変更する。

- ③委員：自然条件・災害危険性で「Aまた、B」との表現は「Aかつ、B」と同じ意味であると読むが、それでは条件内容としてAかBのいずれかの時が含まれなくなるので、◎と○は「AかつB」、△は「AまたはB」とすれば優位性を決める要因がより明確になるのではないか。

事務局：ご意見のとおり変更する。

- ④委員：社会条件の「景観への影響」について、処分場の眺望を明らかにし客観的に評価するため、住民目線からの景観図（パース等）を作成する。

事務局：コンサル事業者の業務仕様には、景観図の作成の含まれておらず、工期が延長する恐れがあり、かつ無償対応をすることは難しいとのこと。代替案として

現地踏査時に撮影した「人が集まる場所」から候補地を見た写真を見て判断していただくことを想定している。

- ⑤委員：自然条件の「災害危険性（大雨）」について、流域面積比率（雨水流域面積／敷地面積）の評価基準の明確化、例えば（◎ 2 倍未満、○ 2 倍以上 3 倍未満、△ 3 倍以上）、もしくは調査結果を踏まえて定量的、定性的に評価基準を明確化する。

事務局：第 8 回選定委員会において、調査結果を踏まえた評価基準を提案する予定であり、客観的に評価することができるよう、根拠資料を提示して議論していただく。

- ⑥委員：経済性の「概算整備費」「概算維持管理費」について、調査結果を踏まえて定量的、定性的に評価基準を明確化する。

事務局：調査結果が出る前「安価」「平均的」「高価」の定義づけを行うのは困難であるため、評価基準は現状のままとし、調査結果が出てから定義づけについて第 8 回選定委員会で議論していただく。

- ⑦委員：用地取得の「土地利用状況」について、以下の通り修文する。

- ・適合度が高い（◎）：土地利用がされていない。
- ・適合度が普通（○）：候補地の一部が土地利用されている。
- ・適合度が低い（△）：候補地の大半が土地利用されている。

なお、調査結果を踏まえて定量的、定性的に評価基準を明確化する。

事務局：修正案の通り変更し、第 8 回選定委員会で議論をいただく。

- ⑧委員：土地取得の「土地取得の難易性」について、調査結果を踏まえて定量的、定性的に評価基準を明確化する。

事務局：各候補地の地権者の人数を踏まえ、第 8 回選定委員会で議論していただく。